

「ふれあい看護体験 2025」実施報告

1. 目的 これからの社会を担っていく中学生・高校生に、患者さんとのふれあいを通して看護することや命についての理解と関心を深める機会を提供する。併せて、看護職を希望する人材の掘り起こしを図る。
2. 実施期日 令和7年7月23日（水）～ 令和7年8月8日（金）
令和7年8月18日（月）～ 令和7年8月22日（金）

3. 結果

1) 実施施設 61 施設

2) 参加者 513 名

中学校 9 校 16 名（1 年生 1 名、2 年生 4 名、3 年生 11 名）

高校 46 校 497 名（1 年生 45 名、2 年生 149 名、3 年生 303 名）

3) アンケート結果

アンケート対象者 513 名 回答数 413 名 回収率 81 %

参加のきっかけ（図 1）、参加した動機（図 2）看護師や看護のイメージ（図 3）は以下のとおりである

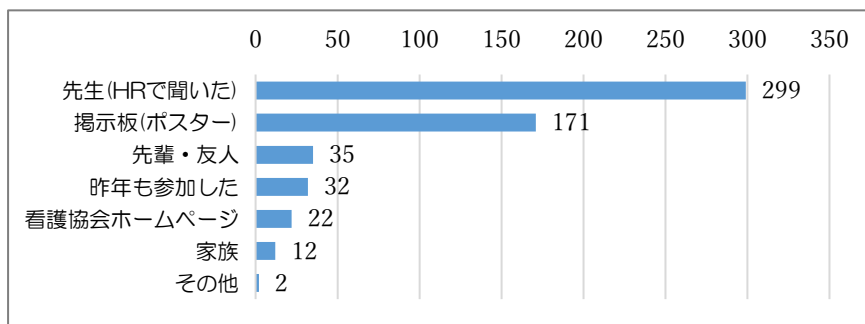


図 1. 参加のきっかけ（複数回答）n=413

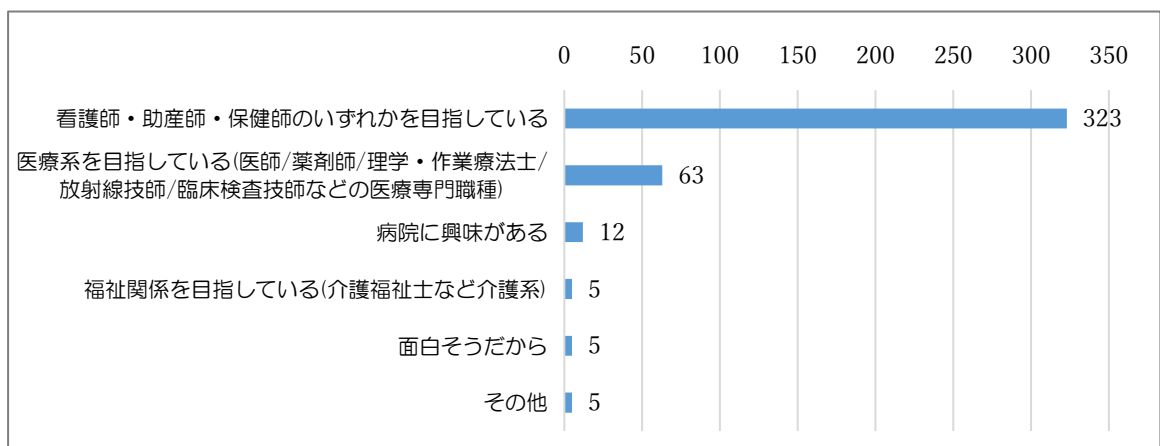


図 2. 看護体験に参加した動機（複数回答）n=413

その他の内容

- 養護教諭の仕事がしたい
- 看護師と公務員で悩んでいるため看護師の体験をしてみたかったから
- お母さんがどんなことをしているかを知りたかった
- 大きな病院なら災害派遣の方がいるのではないかと考えたから
- 養護教諭を目指しており、その過程で看護資格を取りたいと考えているから

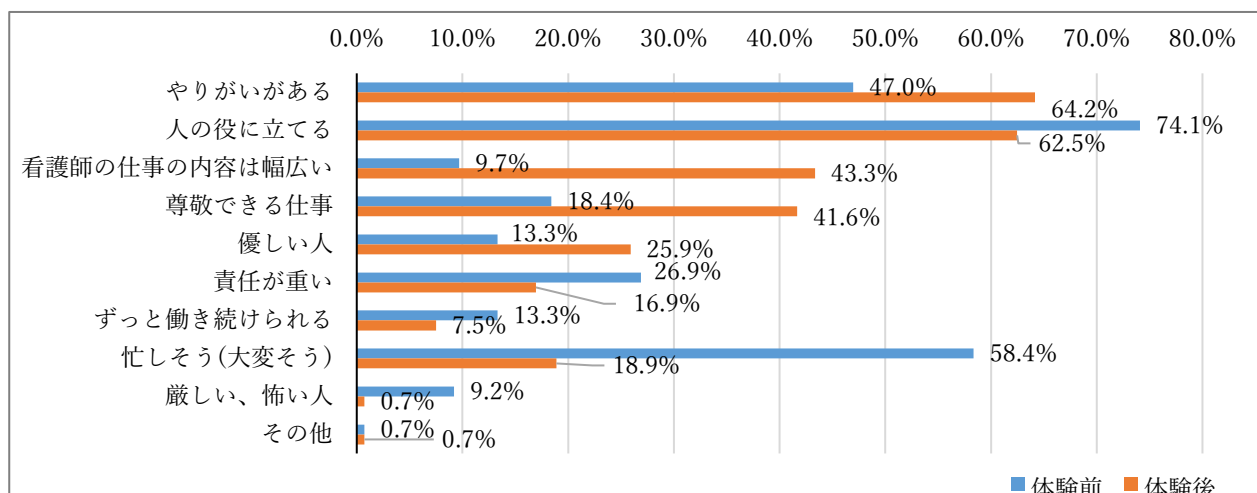


図 3. 体験前後の看護師や看護に対するイメージの変化 n=413
(体験前後それぞれ上位 3 つまでを選択)

ふれあい看護体験で印象的だったこと（抜粋）

【体験】

- 足浴、手浴体験
- 心肺蘇生・AED
- 血圧測定
- 車椅子体験
- 手術の模擬体験
- 手洗い、消毒の体験
- 洗髪
- 点滴や注射などの体験
- 心電図の体験
- 防護服を着たこと
- 赤ちゃんの抱っこ体験
- 沐浴の体験
- 食事介助

【見学】

- 手術室の見学
- 病棟見学
- 検査室見学

【感想】

- 患者さんと直接触れ合うことができて嬉しかった
- 自分が思っていたよりも、看護師のお仕事は幅が広くて、たくさんの人と関われる楽しさもある仕事だと思い、想像していたよりも、好印象になりました
- とても大変だったけどやりがいを感じた
- 一人一人の患者さんに寄り添っていて印象的だった

- 患者さんひとりひとりにしっかりと声掛けをしていて患者さんも嬉しそうだったこと
- 一人の患者さんに色々な職種の人関わっていること
- 食事の試食をして、ペースト状のものを初めて食べて食感や味に驚いた
- 院内見学でいつもは見る事ができない所まで見せて頂けたことが嬉しかったです

看護体験で困ったこと、戸惑ったことの有無は表 1 のとおりである

表 1 看護体験のなかで困ったこと、戸惑ったこと n=413

項目	回答数
ある	14
ない	292
無回答	107

看護体験のなかで困ったこと、戸惑ったこと

- 患者さんとの距離感（コミュニケーション）のとり方が難しかった
- 自分は今何をすれば良いか、どこにいればいいのか分からなくて困った
- 重度心身障害者の方への声掛けや接し方
- 認知症の方にどうやって話せばいいのかこの患者さんにどんな声かけがっているのだろうと少し戸惑った
- 年寄りの方がなんて言っているのか分かりにくい場面があった
- 覚える事がたくさんあって自分ができるかなと不安になった
- 初めてやるが多かったので動作の前の声掛けなどは何と言えいいのか分からずに戸惑っていた
- 帰りの時間が掲示と違ったこと

4. まとめ

「ふれあい看護体験2025」は、61 施設で 513 名が体験することができた。参加の動機は、「保健師・助産師・看護師いずれかを目指している」が最も多かった。看護師・看護の仕事のイメージについては、「人の役に立てる」は、体験前 74.1%から体験後 62.5%であったが、「やりがいがある」については体験前 47%から体験後 64.2%に、「看護師の仕事の内容は幅広い」については体験前 9.7%から体験後 43.3%となり、ふれあい看護体験を通して、看護師・看護の仕事へのイメージが変わったといえる。また、「忙しそう（大変そう）」については体験前 58.4%から体験後 18.9%に減少しており、職業としてプラスのイメージになったのではないかと考える。

ふれあい看護体験で印象に残ったことでは、参加しなければ見ることができない場所を見学できたことや、看護技術の体験ができたことであった。また、実際に看護職の仕事を見学することで、看護職の仕事の内容の理解につながった生徒が多かった。

今年度初めて保健センター1 箇所と助産院 1 箇所で受入れをしていただいた。助産院では、5 人が体験することができた。

ふれあい看護体験を通して看護の魅力を伝え、看護職を目指す人材の確保を行っていきたい。